思考力・判断力・表現力の育成に向けた技術・家庭科（家庭分野）の学習

1　技術・家庭科（家庭分野）における思考力・判断力・表現力について

技術・家庭科においては，①基礎・基本の習得，②基礎・基本の活用と課題の解決，③集団での学び合い，の三つの姿を，豊かな学びの姿としている。

家庭科とは生活そのものを取り扱う教科である。生活とはそれぞれの場面が単独で存在するものではなく，複雑に関係していたり，様々な知識の応用として存在していたりするものである。家庭科では様々な実習が行われるが，実習を行うことが目的ではなく，それを通じて，それらの基礎・基本をおさえた上で問題解決力を身に付けることが目的であり，その先には，生涯を通じて生活の中で生かされる力を身に付けることが大きな目的として存在している。

以上のようなことから，家庭科としてとらえる思考力・判断力・表現力とは次のようなものとなっている。『思考力』としては「製作において，完成した姿や結果を予想し，方法，手順などを見通して計画を立てる」を，『判断力』としては，「計画を実行するために，条件に応じて，それぞれの中から最適な方法，手順などを選ぶ」，『表現力』としては，「確かな知識と技術で実践していく」である。

2　技術・家庭科（家庭分野）における思考力・判断力・表現力を育成する学び合いとは

家庭科は生活に密着した教科であるがゆえに，子どもの思考や判断は自らの生活に基づいたものが多い。しかし，子どもたちはみな同じような家庭生活を送っているわけではない。子どもによって，また家庭によって様々な環境にあるため，子どもたちの思考・判断は多様なものとなる。そして，家庭科においては正解が一つではない場合も多い。学習で得た「知識」と「技能」を効果的に生活に生かすためには，子どもたちの個の学びを全体の学びに広げることにより，生活における問題解決方法には様々な選択肢があることを学ばせることが必要となる。さらに他の子どもの学びを自分の問題解決策の一つとして取り入れることにより，全体の学びを個の学びにいかしていくことが可能となる。そのためには，グループ活動や全体活動が必要不可欠となる。

６月の小学校の公開授業研修会では，調理実習『ゆで野菜サラダを作ろう』の振り返りを行った。同じゆで野菜サラダを作る場合でもどの野菜を組み合わせるか，どのように盛り付けるかは子どもによって異なり，それらは他の子どもにとって「自分のサラダだけが唯一のものではない」ということを気付かせることにつながっている。様々なサラダは一人の子どもだけでは全てを作ることは不可能であるし，発想が及ばない点も数多く存在する。そのため，他者の経験を見ることによって，自らの思考・判断の材料を増やし，選択肢を増やすことにつながるし，さらには，自分の経験を伝えることは表現力を付けることにつながる。

3　技術・家庭科（家庭分野）おける学びをいかすということ

家庭科において，一貫して育てたいこととして「生活に必要な知識及び技能を身に付け，生活をより豊かにしていこうとする能力や態度の育成」をあげている。これは，単に学校での学びにとどまらず，学んだことを実生活にいかすことであり，教科目標に掲げている「進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」ことにつながる。

そのためには，子どもたちが学校で学んだ知識や技能を元に生活の中から課題を見付けたり，生活の中でいかすことができるような指導が必要であり，家庭での実践を意識した学習内容が必要となる。また，先にも述べたように，生活とは総合的な営みであることから，子どもたちが生活を多面的にとらえる目を養うためにも，複数の分野を複合した題材を多く取り入れることも望まれる。

家庭は社会における最も小さな集団である。自立した生活を営むということは，「社会の中で他者とともに生きていく力を身に付ける」ことにもつながることであり，子どもの生きる力を育むことにもつながると言えよう。(共同研究者：島根大学教育学部人間生活環境教育講座，正岡　さち)